

菅直人新総理に期待する事務局長談話

2010年 6月 4日
事務局長 村田 仁

1. 鳩山由紀夫前総理の退陣表明を受けて、本日（6/4）午前で開催された民主党の衆参両院総会で菅直人衆議院議員が民主党の第8代目の代表に選ばれ、午後に行われた衆参両院本会議において、菅直人氏が第94代内閣総理大臣に首班指名された。

新代表・総理には、国民の疑問や不安を払拭するため最大限の努力を傾注し、国民の多くが納得できる政策運営を行うよう強く望むものである。

2. 菅直人新代表・総理は、民主党代表選挙の出馬表明で、政治とカネにまつわる問題にケジメをつけ、民主党が国民に信頼されるクリーンな政党にしていくと述べた。また、多くの国民に失望を与えてしまった沖縄の普天間基地移設問題でも、日米合意をふまえつつ、これからも沖縄の負担軽減という目標に向かって、大きな息の長い努力をしていくとした。

新代表・総理として原点に戻り、国民の信頼を取り戻すために全力を挙げてもらいたい。

3. 連合は、格差社会を解消し、貧困をなくして、真面目に働く者が報われる希望と安心の社会づくりに向けて政権交代が必要であるとしてきた。

民主党を中心とする政権は、昨年夏の政権交代以降、社会保障予算の増額、マニフェストで掲げた子ども手当、高校実質無償化、雇用保険法の適用拡大、連合が今国会での成立を強く求めている改正労働者派遣法案など、「国民の生活が第一。」をモットーに着実に政策課題を実現に取り組んでいる。

また、政官業の癒着のトライアングルを断ち切り、行政のムダと族議員を排除するための事業仕分けや予算決定プロセスの透明化など、これまでの政権では試みもされなかった改革がようやく緒についたばかりである。

4. 菅直人新代表・総理は「政権交代による日本の再生」の希望のたいまつを引き継ぎ「強い経済、強い財政、強い社会福祉を一体のものとして実行していく」として、20年にもわたる閉塞感を打ち破る改革に本格的に取り組むとした。

今日の日本経済と国民生活を取り巻く現状を見たとき、極めて明確な方針であり、多いに理解できるものである。

連合北海道は、昨年夏の政権交代以降、民主党を中心とする政権が着手してきた改革の歩みを止めることなく、政権が安定した政治を行い、国民の信頼を回復させ「希望と安心の社会」を実現するため、「いま踏ん張りどころ、見えない政治に戻さない。」を合い言葉に、参議院選挙に職場で地域で全力を挙げて取り組んでいく。

以上